## JAPAN HOUSEにおける多言語音声翻訳システムの活用

東京都

## 概要

2016 リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック期間中、オールジャパンによる東京/日本のPRを行うための「Tokyo 2020 JAPAN HOUSE」を開設した。 その中の、東京都エリア及び文化体験エリアにおいて、国立研究法人情報通信研究機構(NICT)の協力を得て、外国人来場者とのコミュニケーションに、多言語音声翻訳システム (VoiceTra) を活用した。

## Tokyo 2020 JAPAN HOUSE

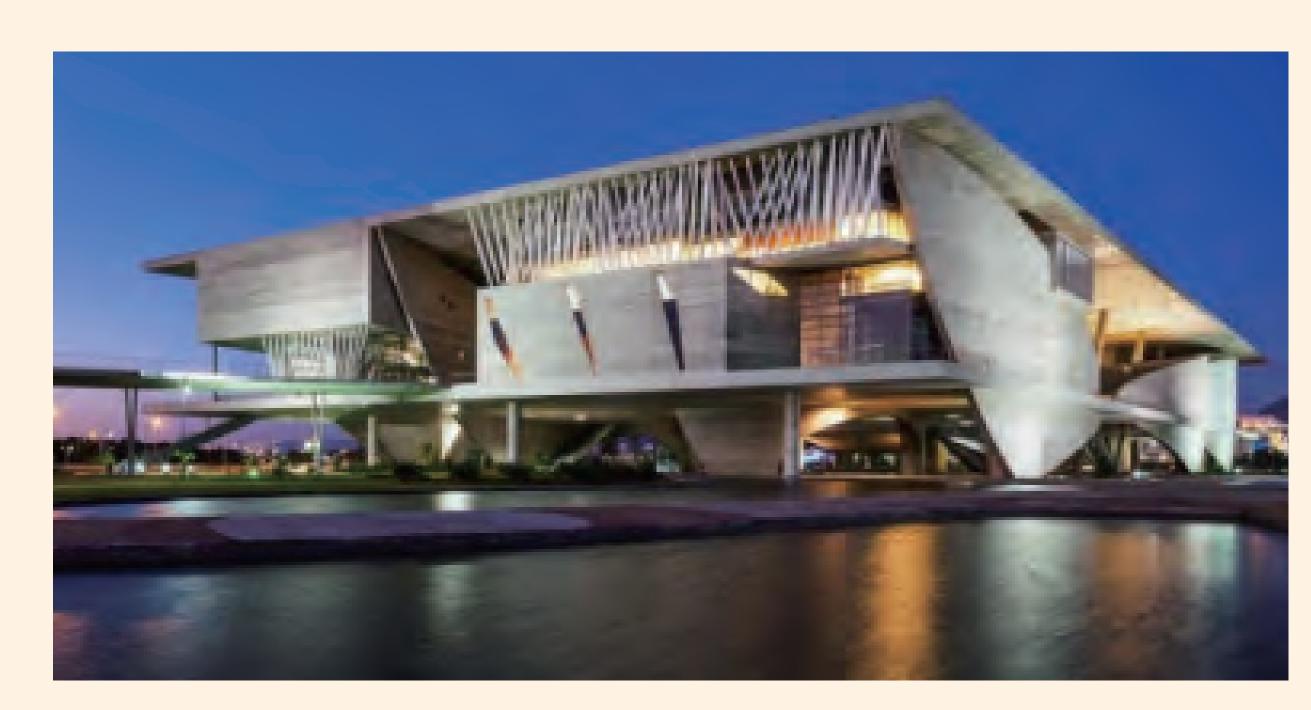
● 日 時: オリンピック期間 平成28年8月5日(金)~8月21日(日) パラリンピック期間 平成28年9月7日(水)~9月18日(日)

● 場 所: Cidade das Artes (シダージ・ダス・アルテス)

● 主 催:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

東京都、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)、

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 (JPC)



JAPAN HOUSE会場

## 多言語音声翻訳システム (VoiceTra) の活用

● 201リオデジャネイロ競技大会に向けて、総務省・NICTは、2016年7月、ブラジルポルトガル語の音声 入出力機能を追加した。

2016リオデジャネイロ競技大会期間中のJAPAN HOUSEを、実証の絶好の機会と捉え、VoiceTraを搭載したタブレットを活用し、現地外国人話者とのコミュニケーションに活用した。

会話例「東京の水道水は飲むことができます。」「何の競技を見ましたか?」/「日本の文化に興味があります。」 「2020年にできたら東京に行ってみたいです。」等

● 今後、翻訳精度等を解析し、2020年大会時の実用化に向けて、翻訳精度や利便性、ノイズ対策などの向上に繋げる。



